

2017年センター試験結果について

2017年度大学入試センター試験の国立文系、国立理系の全国平均点（900点集計）は、ベネッセ・駿台データネットによりますと、国立文系8科目型 556点（対前年+9点）、国立理系7科目型 562点（対前年-2点）でした。科目別平均点の前年差を見ると、国語の全国平均点は大幅ダウンしマイナス22.5点の106.9点。一方で、数学ⅠAが対前年プラス5.8点、ⅡBがプラス4.1点、英語筆記はプラス11.3点に転じるリスニングがマイナス2.7点でした。国語で思うように得点できなかった生徒も、数学や英語で挽回できたケースもあったでしょう。実は国立文系の平均点は2013年度実施の530点から継続して上昇しており、この4年間で26点上がっています。全国的に「文高理低」の傾向が言われていますが、センターリサーチにおいても文系の強気出願の流れが見てとれます。

2月からの勉強が合否のカギを握る

さて、前期日程試験まで正味20日間です。この期間の1時間はふだんの10時間に相当すると言われるほど、集中力を傾けて勉強すればするほど可能性が広がります。もはやセンターの合格可能性判定は過去のものであり、A判定だから、B判定だからどうこういう時期は過ぎ去りました。A判定とB判定、B判定とC判定の間の差は、大学ごとの傾斜配点をベースに換算すれば10点程度のアドバンテージでしかない場合も多く、A判定と言っても僅か数点差し引けばB判定になる人も少なくありません。しかも、それは各受験生が出した自己採点に基づく予想に過ぎません。高校でも予備校でも、必ずしもセンター試験結果が良くなくても、センターC判定やD判定の生徒がどんどん逆転合格してくれる学年は素晴らしい合格実績に沸き立ちます。個人のレベルでも、センターの合格可能性判定だけではなく、これからの勉強の内容や質でどれだけ進化できるかが合否を決めるのです。今年の正月に昨年度の難関大学合格者たちと話をする機会がありました。東京工業大学に進学した元予備校生は、十分準備をして臨んだ物理の二次試験が、のちに「東工のレジェンド」と言われるほど難化しており、それでも「途中まででも書いてやろう、とにかく答案用紙の一枚目は書いてやろう、回収時に周りの受験生にプレッシャーをかけてやろう」と歯をくいしばってがんばったそうです。問題を目にした瞬間はか

なり衝撃だったでしょうが、戦略の限りを尽くして準備し、だからこそ入試でも最後まで知力を奮って戦い抜けた。そういう人にこそチャンスが待っているのでしょう。皆さんもそういう勝負ができる受験生になってください。

2017度(平成29年度)センター試験全国平均点

	2017 (中間2)	2016 (最終)	対昨年差
国語	106.9	129.4	-22.5
数学ⅠA	61.1	55.3	5.8
数学ⅡB	52.0	47.9	4.1
英語(筆記)	123.7	112.4	11.3
リスニング	28.1	30.8	-2.7
物理基礎	29.7	34.4	-4.7
化学基礎	28.6	26.8	1.8
生物基礎	39.5	27.6	11.9
地学基礎	32.5	33.9	-1.4
物理	62.9	61.7	1.2
化学	52.0	54.5	-2.5
生物	69.0	63.6	5.4
地学	53.8	38.6	15.2
世界史B	65.4	67.3	-1.9
日本史B	59.3	65.6	-6.3
地理B	62.3	60.1	2.2
現代社会	57.4	54.5	2.9
倫理	54.7	51.8	2.9
政治経済	63.0	60.0	3
倫、政経	66.6	60.5	6.1
5-8 文系	* 556	* 547	+9点
5-7 理系	* 562	* 564	-2点

*8文, 7理 900点集計の全国平均点はベネッセ・駿台データネットの予想

2月重要スケジュール

2月 1日(水) 国公立大学出願(郵送必着に注意)
2月23日(木) 国公立大学前期対策授業 終了
2月25日(土)・26日(日)

国公立大学前期日程個別試験

*25日は金沢大学前期日程解答例作成(北國新聞に提供)がありますので、質問対応はできかねます。ご了承ください。

2月27日(月) 国公立大学後期対策 開始

重要

国公立大学の受験番号を調査いたしますので、受験票をご確認下さい。また、あらゆる事態に対応するために私大の合否結果はすぐに予備校にご連絡下さい。